

和
了
空
如
入
心
口

批
卷
七
九
八
七

へ13
2944
13



2944
13

特
三谷八目文庫

三谷士齋士

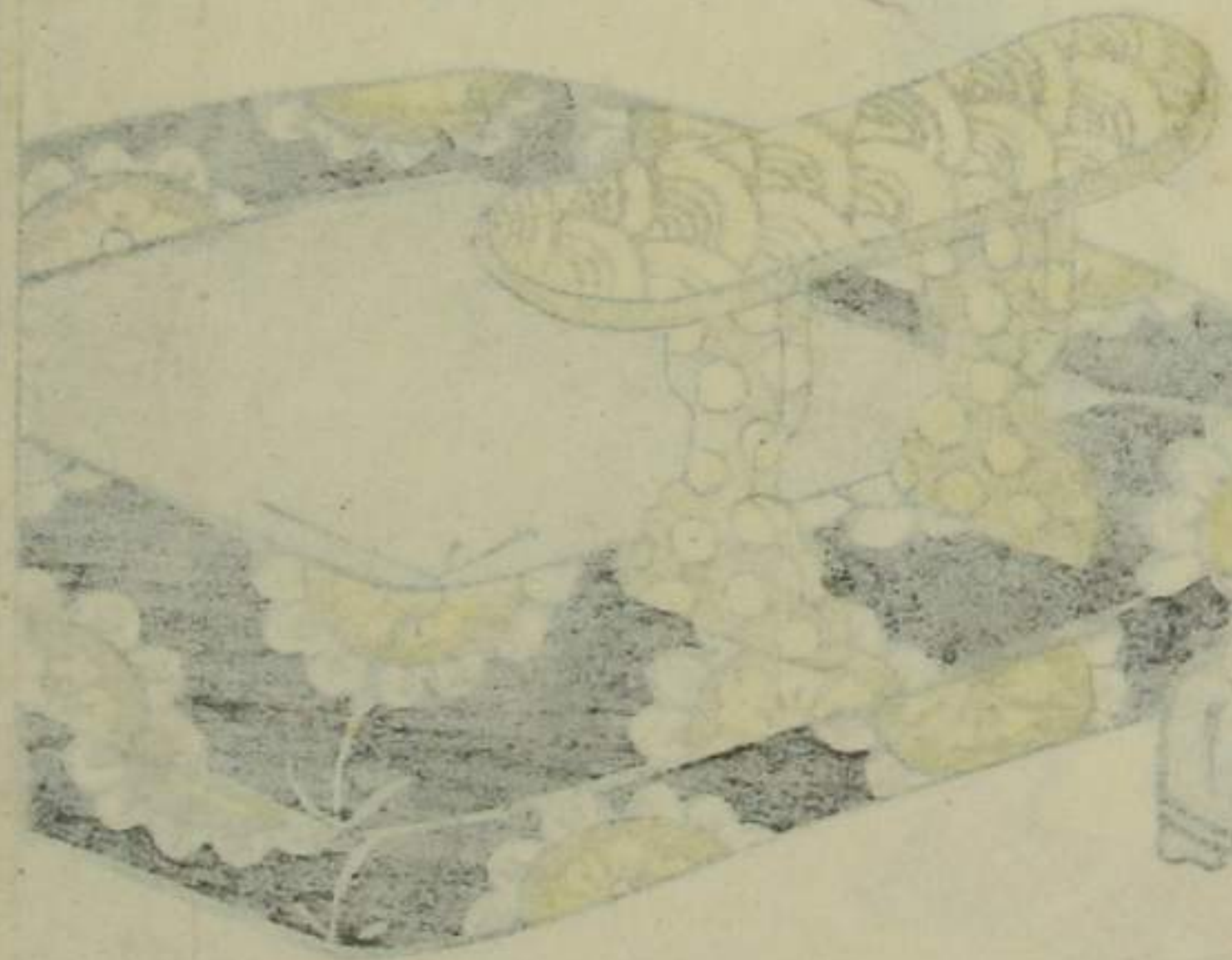
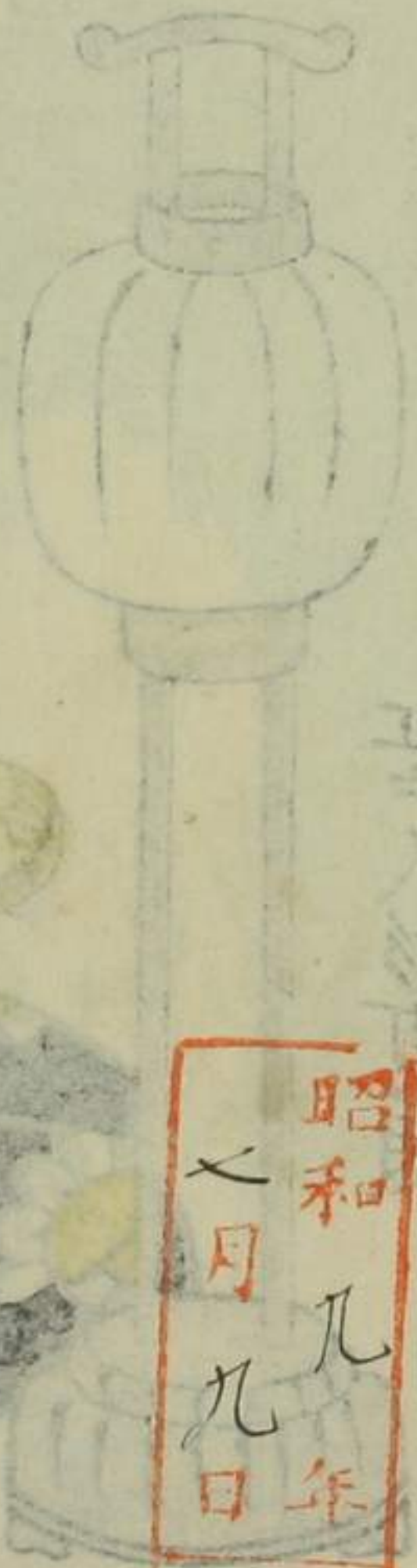
百亭

寶賢社

福川

國貞画

丙辰修陵



上野重齋

昭和九年
七月九日
購末

釋迦八相倭文庫

三拾七編上

万亭

應賀作

歌川

國貞画

丙辰新刻



江戸人形町通
上洲屋重藏版



書月亭如人古 三十七重

應賀作

國貞画

上重板



升題曲五段

錦重堂板

下



倭文庫三拾七編

歌川國貞画
万亭應賀作

安政三年
丙辰初春
開鐫

上

釋迦八相倭文庫三拾七編叙

夫佛を如來と云の便漢語より梵語中多他識具と云
 中これと翻トて如去と云の凡位より修行して正覺と成
 乘如去の如來如去の成佛以後悲願力の如來施化乘如
 來を以て如來と申介とハ如去と云の自證如來と云化他
 の義を欲これら陳フン和漢ノ陀を如去と云の序の白を
 の之文ヲ智慧心の味贈小筆の穂を摺小木に於て二十日夜
 の恥と元旦の如來を似るも春毎の吉例の虧とを以て
 も変ぬ我我愛中旧冬のものに夜惚貞と拭ひもあを費
 言ふと我

安政四年
 丁巳孟陽

万亭應賀述

倭文庫七二

應賀

好む

字七海下

應賀作

國貞画

三海

屋

たん





提婆謀をもちて
阿闍世太子を
王金尼城に
送らむ

びんたあやら王

阿闍世太子
幼名折指李



のりけ夫人



帝釈天王孫娘

如來



中より
如來切利天
上より故摩耶夫人
小逢玉

故摩耶夫人

修文庫 廿七



つぎにそのひこの
ねがひをたてまつらば
そのおんをさるるゆか
にありてそれをさるる
あひてさるるゆか
つぎにそのひこの
ねがひをたてまつらば
そのおんをさるるゆか
にありてそれをさるる
あひてさるるゆか

みごころのあはれ
さるるゆかのあはれ
みごころのあはれ
さるるゆかのあはれ
みごころのあはれ
さるるゆかのあはれ

よきとせのあはれ
さるるゆかのあはれ
よきとせのあはれ
さるるゆかのあはれ
よきとせのあはれ
さるるゆかのあはれ

まごころのあはれ
さるるゆかのあはれ
まごころのあはれ
さるるゆかのあはれ
まごころのあはれ
さるるゆかのあはれ



つぎにそのひこの
ねがひをたてまつらば
そのおんをさるるゆか
にありてそれをさるる
あひてさるるゆか
つぎにそのひこの
ねがひをたてまつらば
そのおんをさるるゆか
にありてそれをさるる
あひてさるるゆか

みごころのあはれ
さるるゆかのあはれ
みごころのあはれ
さるるゆかのあはれ
みごころのあはれ
さるるゆかのあはれ

よきとせのあはれ
さるるゆかのあはれ
よきとせのあはれ
さるるゆかのあはれ
よきとせのあはれ
さるるゆかのあはれ

まごころのあはれ
さるるゆかのあはれ
まごころのあはれ
さるるゆかのあはれ
まごころのあはれ
さるるゆかのあはれ



信天翁

五





あつたのそのみまの
せふあつたのそのみまの
あつたのそのみまの
あつたのそのみまの

くろの如東あつたの
あつたのそのみまの
あつたのそのみまの
あつたのそのみまの

せんねんあつたの
あつたのそのみまの
あつたのそのみまの
あつたのそのみまの

あつたのそのみまの
あつたのそのみまの
あつたのそのみまの
あつたのそのみまの

あつたのそのみまの
あつたのそのみまの
あつたのそのみまの
あつたのそのみまの



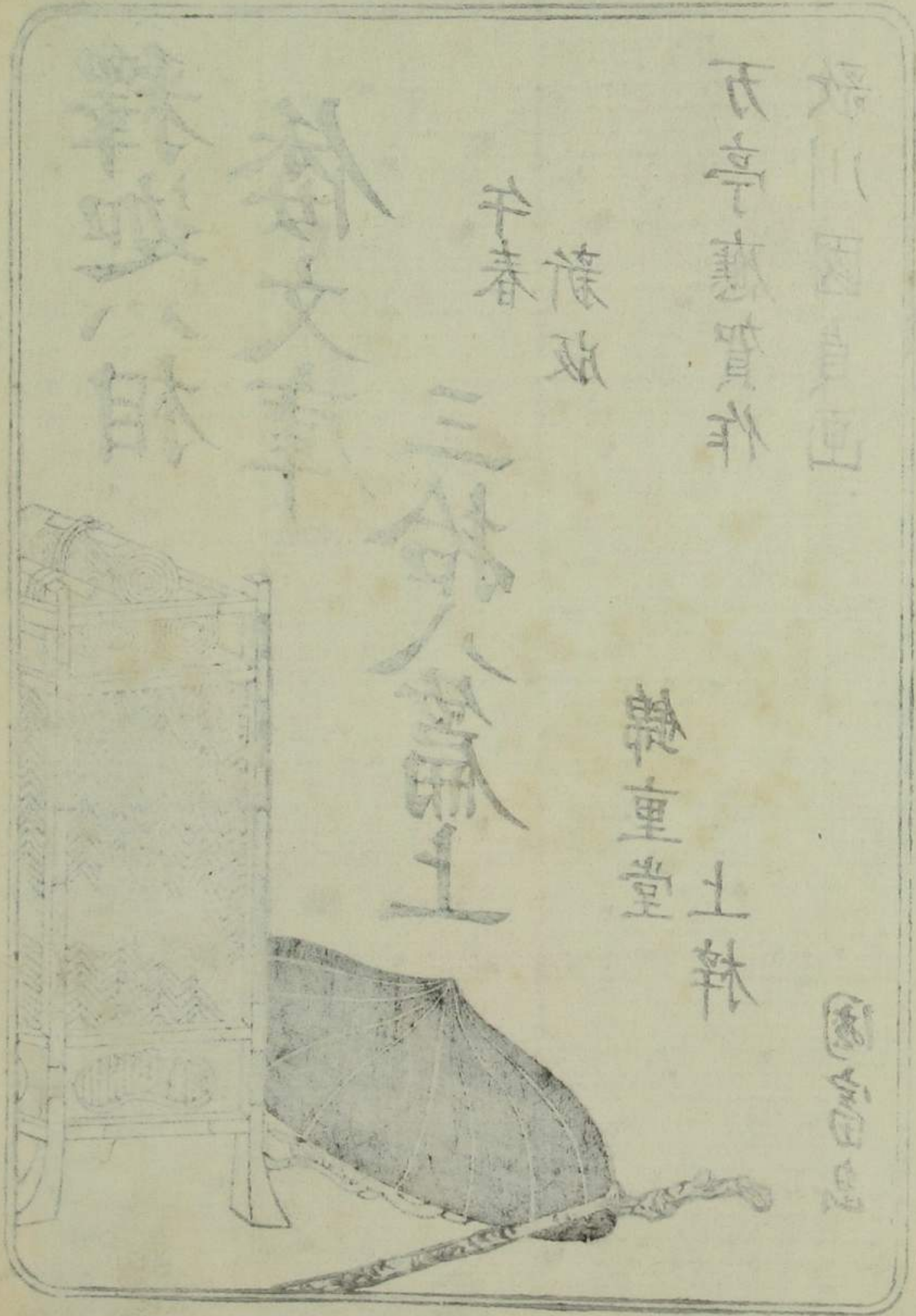
あつたのそのみまの

これまゝに申入上りて
おぼつかぬやうに申入上りて
おぼつかぬやうに申入上りて
おぼつかぬやうに申入上りて
おぼつかぬやうに申入上りて
おぼつかぬやうに申入上りて
おぼつかぬやうに申入上りて
おぼつかぬやうに申入上りて
おぼつかぬやうに申入上りて
おぼつかぬやうに申入上りて

應賀作



國貞画



信文庫 九七

天亭 應賀作

徳政

千春

三益八景上

轉重堂

土鞆

國貞画

釋迦八相

倭文庫

三拾八篇上

午春
新版

万亭應賀作

歌川國貞画

錦重堂

上梓

國富出



倭文庫三拾八



應賀作





安政五稔
午春新刊

歌川國貞画

倭文庫三拾八編

下



万亭應賀作

外題曲多(因魚)

錦里堂版

上



神通邪道の
 司法性の
 妖術の
 変身の

本
 文
 八
 十

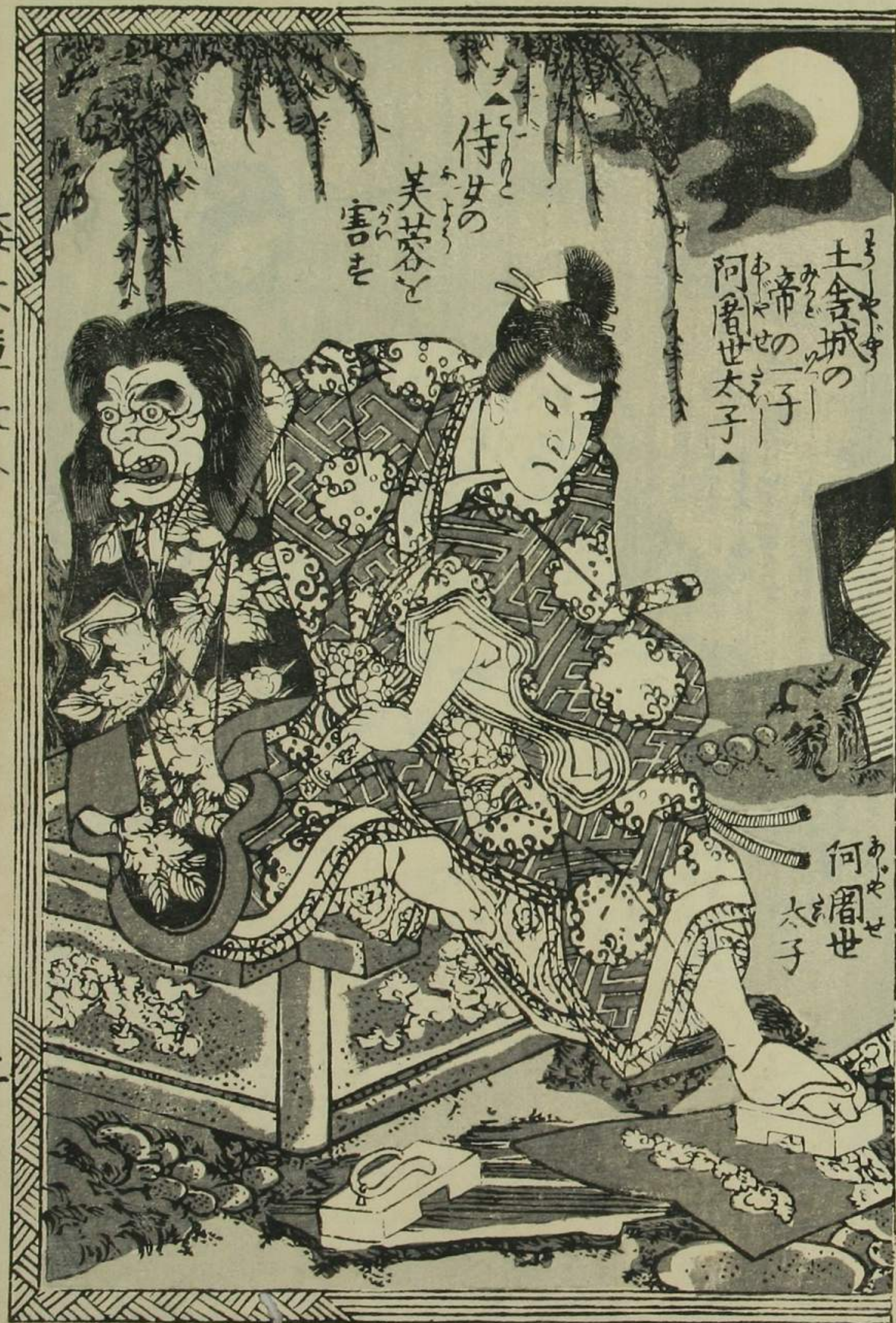


切利天の喜見城より
 世尊七宝の楷を下天
 におく

如未の
 後妃

如未

本
 文
 八
 十



Handwritten text in the top right section of the right page, likely a preface or introductory text.

應賀作國貞画



Handwritten text located below the illustration of the woman, providing commentary or a description.

Handwritten text in the top left section of the left page, likely a preface or introductory text.



Handwritten text surrounding the illustration of the man, providing commentary or a description.



木女車九



木女車九



法華經卷第十一



法華經卷第十一



万亭應智作 歌川國貞画



五番

玉海

文庫

三十九編

万亭の夜明著
一壽島國貞画

歌川國貞

歌川國貞畫

午春
新版

万亭應賀作

針通屋在國貞

錦重堂梓



倭文庫三拾九編



倭文庫

牛夷
新史

字平九編

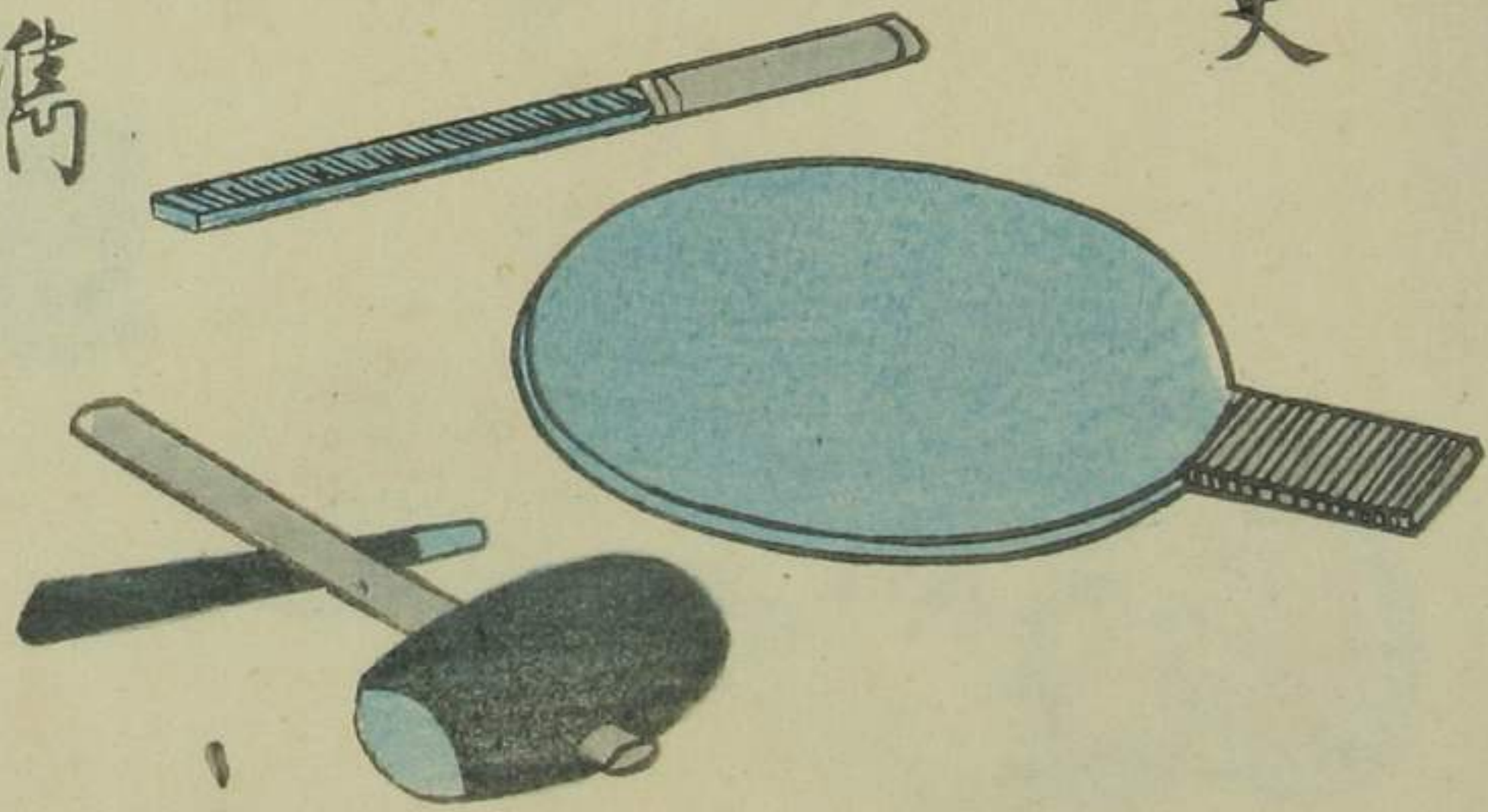
下巻

應賀作

國貞画

上州屋

用瀉



三十一

釋迦八相倭文庫三拾九編序

夫言兼多此の品少しと古語戒めこれと童蒙や少女連の聊善道を
悟さるるも一事と再々回して説く情くも半事も通じらば然とて亦
竟と二事と再三再四説く種双史の比丁るれば然とて亦
愚筆ぞ詞寡小編され根未不解本が著夫も亦不任意両道難
も困りの驛宿をねと案の長途杖と机のつとと悩まき不寐釈迦仏昼
目蓮の何難と迦葉難陀羅睺羅のちもろ靡とつ舎利弗法堂の因口を
引く二言とこの夢の幕の歌舞妓の女に及猿夫婦小奈落の禁忌も弥叶
さう十億土のそれの方便とれ狂弁
安政五年戊午孟陽

万亭應賀誌

世尊神通方便
難陀羅睺羅
波羅維斯那城
雪山及天都
地獄

毛空風火水地



無間
の亡
人

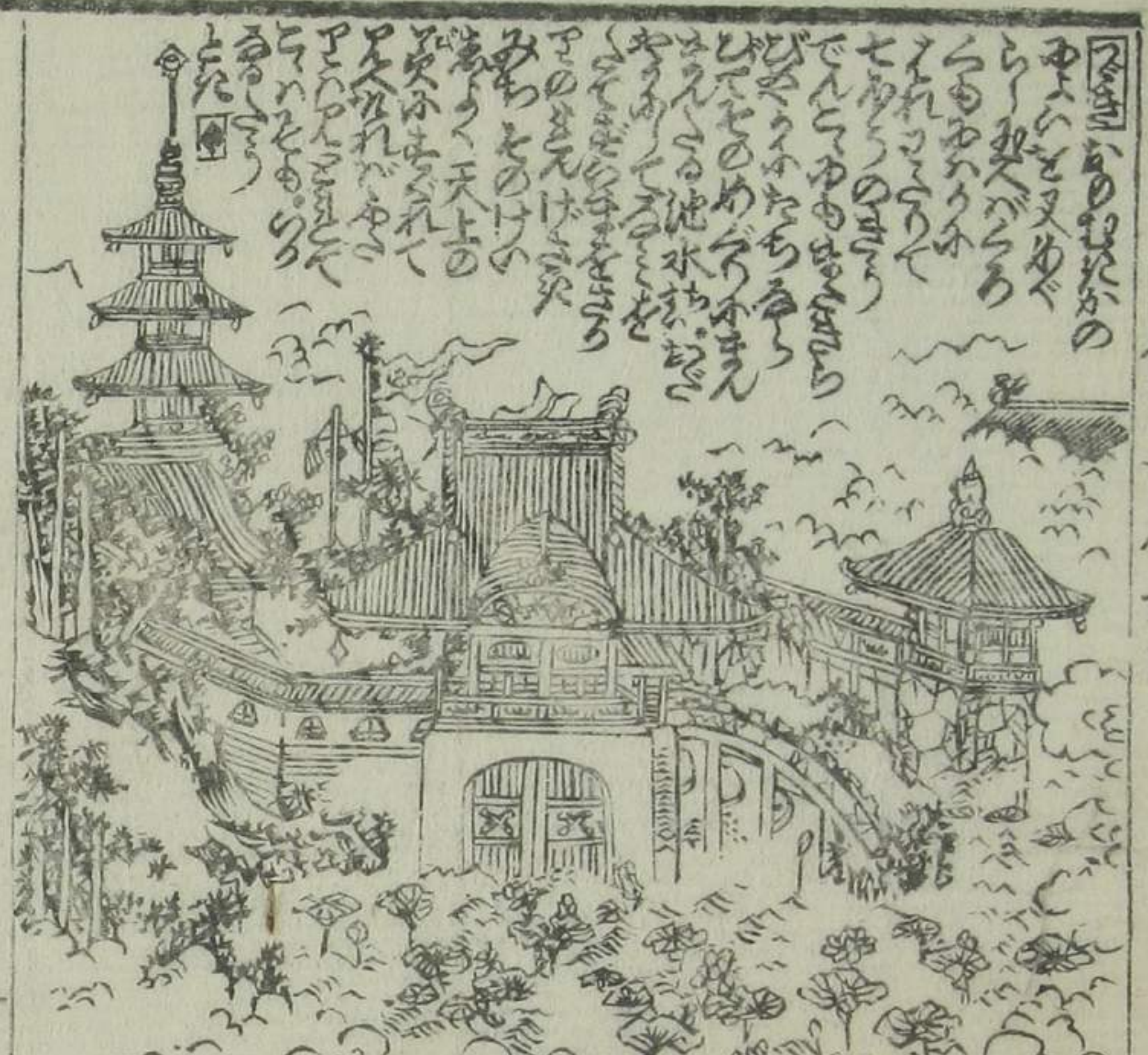
羅睺羅



淨土
と見せ

難陀
太子





□ 此の寺は天正の御時より... 天正寺の御時より... 此の寺は天正の御時より... 天正寺の御時より...

万亭應賀作の二壽齋國貞画の

倭文庫
三十拾九
編上卷
戊午春新彫
万亭應賀作
歌川國貞画



人形町通
上刀屋
重藏板

